

【現状・課題・目的】

渡島・檜山地域では、戦後植栽された人工林が利用期を迎え、今後主伐再造林が大幅に増加することが確実な状況です。一方、造林作業を行う担い手不足は深刻な状況となっており、各地で担い手対策協議会を設置する等地域を挙げて担い手確保の取組を進めています。地域では、造林コストの低減と造林作業の軽減が重要な課題となっています。

【これまでの 取り組みや成果】

低コストで効率的な施業を地域に普及・定着させるため、これまで低コストで効率的な列状間伐の推進、軽労化を目指したコンテナ苗の普及、低コストと軽労化の両立が可能となる「地表処理」や「盛土地拵」の提案等、地域林業関係者に対し、現地検討会や研修会等により周知を図ってきました。

結果、民有林での列状間伐実施率の向上、市町村森林整備計画ほのコンテナ苗植栽の組み込み等、低コストへの意識の高まりが一定の成果として現れてきています。

【令和元年度の取組予定】

① コンテナ苗の普及に向けた取組

今年度、渡島檜山管内の国有林で初めて「クリーンラーチ」コンテナ苗の植栽が予定されていることから、カラマツ人工林の齢級配置の平準化を図るためにも、形質・成長・強度に優れ、野鼠の食害にも強い等、クリーンラーチの特性への理解を深めるとともに、コンテナ苗全体のメリットや優位性について周知し、「クリーンラーチ」を含むコンテナ苗全体の普及定着を目指していきます。

また、毎年行っている生長調査を引き続き行い、データを蓄積、分析のうえ、その結果を地域に示し、コンテナ苗の一層の普及と活用促進に努めていきます。

② 造林コスト低減に向けた取組

昨年、現地検討会を実施した「地表処理」及び「盛土地拵」実施箇所において、天然更新の状況、苗木の生長、盛土の形状変化、植生の回復状況等の各種追跡調査を実施します。

蓄積されたデータは分析・検証を行い、3～5年を目途に改めて周知します。

人工造林は、約8割が一般民有林で行われており、一般民有林への普及が不可欠

道内の人工造林実績

(H28林業統計)

区分	国有林	道有林	一般民有林
面積 (ha)	514	1,081	5,978



コンテナ苗現地研修会



盛土地拵箇所
生長調査

【今年度の取り組み で目指すところ】

1. 地域のコンテナ苗への理解を深め、コンテナ苗使用率の向上を目指す。
2. 地域でのコンテナ苗の使用量増加によるコンテナ苗の低価格化を目指す。
3. 優れた交配種であるクリーンラーチの地域への普及を目指す。



コンテナ苗生産現場

【今後の目標】

造林コストの低減・軽労化により、民有林における新植率の向上を図る。

目 標

造林コストの低減・軽労化により、民有林における**新植率の向上**を図る。

【今年度の取組目標】

- 1 コンテナ苗の**使用率向上**を目指す。
- 2 コンテナ苗の**低価格化**を目指す。
- 3 **クリーンラーチ**の**地域への普及**を目指す。

【令和元年度の取組】

コンテナ苗の普及に向けた取組

形質・成長・強度に優れ、野鼠の食害にも強い等、優れた交配種であるクリーンラーチの周知をはじめ、コンテナ苗全体のメリットや優位性、新技術の紹介等によりコンテナ苗全体の普及定着を目指す。

また、コンテナ苗生長調査を引き続き行い、データの蓄積・分析のうえ、その結果を地域に示し、一層の普及と活用促進に努める。

造林コスト低減に向けた取組

昨年、現地検討会を実施した「地表処理」及び「盛土地拵」実施箇所において、天然更新の状況、苗木の生長、盛土の形状変化、植生の回復状況等の各種追跡調査を実施し、蓄積されたデータの分析、検証を行い、3～5年を目途に改めて周知する。



生分解性コンテナ

【取組の内容】

コンテナ苗の普及に向けた取組

今年度「クリーンラーチ」を植栽した現地において、地域林業関係者等を対象に現地検討会を開催した。

現地検討会では、地域の現状、コンテナ苗のメリットとデメリット及びその解消策、生分解性コンテナや緩効性肥料等の新技術の提示、軽労化・負担軽減に役立つコンテナ苗の特性を理解してもらうため、オーガ等の専用器具による植付体験を実施した。

また、クリーンラーチの優れた特性を説明し、民有林の樹種別年齢級配置を示し、多様な樹種の計画的配置の重要性等の理解を深める取り組みも行った。



民有林人工林年齢級構成



生分解性コンテナの説明



オーガを試す参加者

造林コスト低減に向けた取組

「地表処理」及び「盛土地拵」実施箇所において、更新状況調査、苗木の生長量調査を実施し、データの蓄積、分析、検証を行った。「盛土地拵」箇所では、土砂の流出、盛土の形状変化は見られず、無下刈の中、植生の回復が見られるが、苗木の枯死もなく堅調な成長となっている。

【取組の成果】

コンテナ苗の普及

【成果】

- ・コンテナ苗が軽労化・工程アップに寄与することに理解を得られた。
- ・来年度、コンテナ苗価格の値下げが確定し、使用へのハードルが大きく下がることを周知。
- ・新たな技術により、梱包・運搬・成長促進に効果があることに理解を得られた。
- ・クリーンラーチの優れた特性について理解を得られた。

【課題】

- ・未だ使用実績のない民有林へのコンテナ苗導入のため、繰り返し低コストで効率的な施業として発信していく必要がある。

目標に対する達成度

- 現在まで継続して「造林コストの低減・軽労化」に資する提案を行ってきたが、今年度はさらに理解を深めるため、生分解性コンテナや緩効性肥料、クリーンラーチの優れた特性等の周知を図り普及に向けステップアップを図った。

次年度の取組予定

- 民有林における新植率の向上、更新未済地の解消を図ることを目的に、植付作業・下刈作業の削減、コンテナ苗の普及等、「造林コスト低減・軽労化」に資する取り組みを進めてきており、次年度も継続して地域が求める「低コストで効率的な施業」の提案を進めていく予定。